



呼吸器センターのご紹介

副院長 佐藤 敦夫

明治の後半から昭和の初めにかけて、わが国では結核が大流行しておりました。その頃には結核に対する有効な治療薬もなく、たくさんの若い方が結核で亡くなり、日本の死因のトップが結核である時代が続いておりました。その頃は、肺病といえば肺結核のことでしたし、肋膜炎といえば結核性胸膜炎のことでした。つまり肺の病気＝結核であり、ほかの呼吸器の病気はほとんど問題にされていなかったのです。ところが、結核治療薬が戦後次々に開発されて、結核は治る病気になりました。おかげで、結核患者さんはどんどん減ってゆきます。そうすると結核以外の様々な肺の病気にも関心が注がれるようになりました。これが現在の呼吸器学の幕開けとされています。あまり知られていないことですが、日本結核病学会という学会が古くからあり、そこから日本呼吸器学会が生まれました。母校の京都大学の呼吸器内科の前身も結核研究所でした。

東京都病院の呼吸器科もその前身である国立療養所時代からの伝統を引き継ぎ、時代とともに変遷する呼吸器疾患に対して専門的な医療を提供してきました。現在の呼吸器内科・外科の平均入院患者数は100名前後で、結核患者さんはその内14名程度に過ぎません。それらの患者さんを呼吸器内科の常勤医9名、非常勤医2名、呼吸器外科の常勤医2名、非常勤医1名で診療させていただいています。特に呼吸器内科の専門医が7名常勤医で勤務しており、京都府南部では最も呼吸器科専門医の多い病院の一つです。「医師のみならず、コメディカルスタッフがチームで呼吸器疾患に対応したい」という目的から一昨年、呼吸器センターを開設いたしました。

今は、肺がん、肺炎、COPD、喘息などが罹患率の高い呼吸器疾患として知られていますが、患者さんの高齢化に伴い間質性肺炎や非結核性抗酸菌症が年々増加しています。今後は喫煙者の減少に伴い、肺がん、COPDの患者さんは減少しますが、嚥下障害に関連した肺炎や、間質性肺炎や非結核性抗酸菌症が増加し、呼吸器疾患の患者さんは全体として増加することが予想されています。

一言で呼吸器疾患といっても様々な疾患があり、場合によってはいくつかの疾患が合併することも少なくありません。また、疾患の治療以上に、栄養管理が必要な場合や、リハビリテーション、生活環境の調整が、患者さんの生活の質や予後の改善に役立つことも少なくありません。当院の呼吸器センターでは、多種多様な病態に対して医師だけではなく、看護師、リハビリテーション科、地域連携室、NSTチーム、緩和ケアチームが協力して対応することで、患者さんの様々なニーズに答えてゆきたいと考えております。

呼吸器の疾患は多くは慢性の疾患で、長期に渡り病気とつきあっていく必要があります。現在の医療システムでは、病気が悪化すると、なじみの少ない急性期病院での短期間の治療を受けることがどうしても多くなります。なじみの医師やコメディカルスタッフが、外来でも入院でも、継続的に患者さんとお付き合いさせていただけることが当院の特徴です。交通の便が悪い、診療科が少ないなどのマイナス点もありますが、今後もその特徴を生かし、病院全体の目標である「分かりやすく安全で、安心して受けられる質の高い医療」を提供してまいります。

当院の脳神経内科について

臨床研究部長 川村 和之



南京都病院脳神経内科は杉山 博先生が着任された平成 3 年 8 月に開設され、間もなく開設 28 年目を迎えようとしています。開設以来、筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病関連疾患など希少とされる神経難病に対して医療を提供することを診療の柱として来ました。

昨今の新聞やニュースで報道されている通り、社会の高齢化とともにアルツハイマー病に代表される認知症患者数が増加しています。以前は子供の病気と捉えられていた「てんかん」も 65 歳以上の高齢者で増加傾向にあります。パーキンソン病も例外ではなく、権威ある米国の脳神経内科専門誌では「パーキンソン病はアルツハイマー病を凌ぐ勢いで増加しており、社会はエイズ（AIDS）に対した時のように対策を講じる必要がある」と警鐘が鳴らされています。

このように神経疾患はもはや希少な病気ではなく、誰もが生涯の間にかかる可能性のあるありふれた病気となりました。しかしながら、現状は脳神経内科専門医の診察を受け適切な診断と治療を受けている患者さんは約半数に過ぎないと言われています。脳神経内科が患者さんにとって身近な診療科になるよう、地域の中でその認知度を上げていくことが急務です。そのため、南京都病院脳神経内科は平成 31 年 4 月に 4 つの専門外来（もの忘れ・認知症、手足のしびれ、てんかん、パーキンソン病）を開設しました。また今後、コミュニティセンターの健康講座などを通して、地域の皆さんに脳神経内科を知って頂く機会をより多く持たせて頂きたいと思っています。何卒よろしくお願い致します。

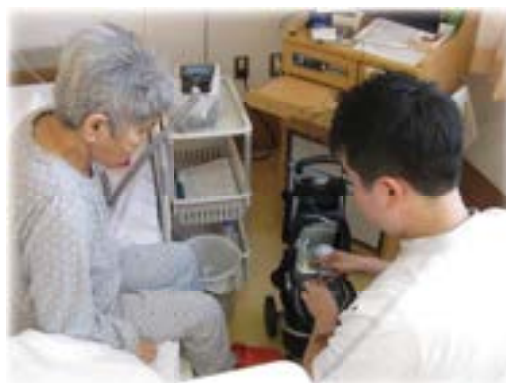
西病棟4階におけるHOT（在宅酸素療法）の指導について

西病棟4階 看護師 奥村 豊

西病棟 4 階では呼吸器の病気治療のために、多くの患者さんが酸素の吸入を受けておられます。退院後も酸素の吸入が必要な方には、自宅でも酸素療法を継続していただくこととなります。自宅で酸素を使うためには、酸素濃縮器を家に置いたり外出時には酸素ボンベを携帯していただくこととなります。そのために入院中から退院後の生活をみすえた酸素の管理を患者さんだけでなく家族の方々にも学んでいただく必要があります。

当病棟では、在宅酸素療法をおこなうために「呼吸リハビリテーション」の DVD を視聴してもらい、病気や息切れ、食事、酸素の取り扱い方などの理解を深めていただいています。退院前には、リハビリ中や病棟内でも在宅用の酸素ボンベを使用いただき、酸素管理に習熟してもらっています。

患者さんや家族の方が、無理なく日常生活や仕事、趣味活動を行えるように「あせらず・ゆっくり」を第一に患者さんの目線に立った説明を心がけております。退院後も月 1 回「HOT 外来」に来ていただき、酸素を適切に使えているか、体の調子は悪くなっていないかを確認するなど、継続した支援を行っています。



栄養食事相談のすすめ

栄養管理室長 右野 久司

糖尿病や高血圧、脂質異常症、痛風、肥満症などの、いわゆる生活習慣病と呼ばれる疾患は、ほとんどが食習慣に問題があることが大きな発症因子となっています。それに気づいていない人、気づいてはいるものの、食生活をどのように改善すれば良いのかわからない人、あるいはわかっても改善できない（したくない？）人もおられるかと思えます。生活習慣は十人十色です。個別栄養相談は、その人の年齢や体格、嗜好や生活環境、家族構成など、さまざまな要素を勘案した上で、その人の実践できる範囲での食生活改善を提案します。

相談の対象は、生活習慣病ばかりではありません。近年増加してきている「誤嚥性肺炎」は、食べ物や飲み物などが誤って気管の方へ流れ込み、肺に達して炎症を起こすことで発症します。

誤嚥は神経や筋肉の疾患のほか、加齢に伴う筋力や反射の低下によっても起こりやすくなりますが、調理方法や食べ方の工夫で、ある程度予防することが可能です。最近、食事中などにむせることが多くなってきたなと感じる人や、飲み込みに関して違和感のある人への栄養食事相談もお受けしておりますので、気になる人は一度ご相談ください。

その他、食欲がない、呼吸がしんどくて食べられないなど、何らかの理由で食事摂取量が少なくなり栄養不足となってしまう人がおられますが、そのようなケースも相談の対象となります。

このように、栄養食事相談の内容は多岐に渡ります。当院では、随時栄養食事相談を受け付けております。これからの季節、熱中症や夏バテ予防の話を聴きたいといった内容でも結構です。栄養や食事についてお困りのことや疑問に思われていることがございましたら、内容を問わず、ご遠慮なく主治医にお申し出下さい。当院の管理栄養士がご相談をお受けいたします。



ワクチン接種の必要性について

感染対策看護師 宮川 英和

世界中には、とてもたくさんの感染症が存在しています。中には、ワクチンのない感染症もありますが、ワクチンが開発され予防できる感染症もあります。

ワクチン接種は、市区町村が主体となって実施する「定期接種」と、希望者が各自で受ける「任意接種」があります。接種費用は、定期接種は公費ですが（一部で自己負担あり）、任意接種は自己負担となります。

例えば風疹ですが、大人が罹れば子供より症状が強く出る事があり、妊婦が罹れば胎児の成長にも影響する可能性があります。1度罹れば、抗体ができ再感染しないと言われていています。罹っていない方でも、ワクチン接種を2回行う事で予防できる病気です。風疹の定期接種（2回）は平成2年に開始になりましたが、年代により予防接種を受ける機会が少なく、抗体を持たないまま成人している方もおられます。昭和37年4月2日～昭和54年4月1日までの間に、生まれた男性に抗体を持たない方が多いと言われていています。

厚生労働省は、昭和37年4月2日～昭和54年4月1日までの間に生まれた男性に対し、今年から2022年3月31日まで、公費負担での風疹抗体価検査と抗体価が足りない方に対する予防接種の実施を決定しました。当院でも風疹の抗体価検査、予防接種が受けられます。

自身と周囲の方を風疹から守るためにも、まず抗体価検査を受けましょう。



地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

わかりやすく丁寧な説明を心がけ、地域の皆様に安心してご利用いただけるクリニックを目指しています

大原クリニック

内科 脳神経内科

院長 大原 亮 先生



大原クリニックは、平成 27 年 4 月に父が開設した大原診療所を改めリニューアルし開院しました。京都府立医科大学を卒業後、母校の神経内科に入局し、その後大学病院、関連病院にて神経内科疾患、脳卒中を中心に診療を行ってきました。高血圧症、

脂質代謝異常、糖尿病などの生活習慣病などの一般内科に加え、パーキンソン病などの神経内科変性疾患、認知症、脳卒中、頭痛、めまい、しびれなどを中心に診療を行っています。急速に進む高齢化社会に伴い、認知症、パーキンソン病などの脳神経内科疾患が今後ますます増加すると予想され、かかりつけ医としての脳神経内科医の重要性、責務を日々感じています。南京都病院には認知症などの診断に必要な頭部 MRI、脳血流 SPECT 検査などで大変御世話になっています。今後も連携を強化させていただき、地域の皆様の健康増進に少しでもお役に立てるよう全力を尽くしたいと考えます。神経内科、脳卒中専門医としてのこれまでの経験、知識を生かし、またわかりやすく丁寧な説明を心がけ、地域の皆様に安心してご利用いただけるクリニックを目指しています。

■ 京都府城陽市寺田今堀152-38
■ TEL 0774-54-0148
■ FAX 0774-54-0090

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前診 9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	/
午後診 16:30~19:30	●	●	/	●	●	/	/

■ 休診 水曜日午後、土曜日午後、日曜日、祝日



在宅の生活・健康・笑顔をたもつ支援をします

株式会社KEEP 訪問看護リハビリステーションたもつ

訪問看護

訪問リハビリ

訪問看護リハビリステーションたもつは、看護師 6 名、作業療法士 3 名、理学療法士 1 名のスタッフが在籍しています。自宅で生活をご希望されているご本人・家族さんがどんな病気・状況であっても安心できる「24 時間サポート」[土日祝日・夜間の訪問看護]の体制を整えています。

- ・呼吸器疾患に精通しているスタッフがいます。
- ・神経難病疾患や人工呼吸器を使用している利用者さんが多数おられます。
- ・重症心身障がい（児）者に対して経験豊富なスタッフがいます。
- ・小児発達領域を得意とするスタッフがいます。
- ・リハビリと看護の連携を図っています。



常に地域の皆様や医療機関・居宅介護支援事業所と連携を図り、洗練された質の高い訪問看護リハビリステーションを提供します。

■ 京都市伏見区深草西飯食町77番地
■ TEL 075-200-8455
■ FAX 075-200-8457
■ 営業日：月曜日～土曜日
■ 営業時間：8:30～17:30
■ 対象エリア：宇治市・宇治原町・伏見区・南区・山科区・東山区

※相談に応じます

：京田辺市・城陽市・井出町



西病棟2階病棟紹介

西病棟2階 看護師長 都市 美晴

西病棟2階は当院が担う政策医療、重症心身障がい児（者）病棟です。病床数は60床、入院患者さんの年齢は2歳から69歳と幅広く、先天性の疾患から脳炎や脳症等の後遺症により多くの方が医療的ケアを必要とします。私たちは患者さんが安全・安楽な入院生活を送られるように医師や療育指導室職員と常に協働し、患者家族の思いに沿った看護を実践しています。患者さんは言語的コミュニケーションが困難であり、アイコンタクトで意思表示が可能な方は少なく、私たちは五感を使って患者さんが何を求めているのか、思いを引き出せるよう声をかけ、その人に合った援助を心掛けています。病棟では看護師と療養介助専門員が日常生活援助を中心としたケアを行います。呼吸療法認定士の資格を有するスタッフもおり、呼吸理学療法や体位交換、口腔ケアなどを実施して肺炎予防に努めています。日々繰り返し行うケアが患者さんの生命維持のために何一つ欠けてはならないものであり、この当たり前のケアが患者さんの命を守り生活の質を保ち、患者さんにとって楽しみの一つである季節行事や社会見学に楽しく参加できるのだと思っています。

西病棟2階では毎月20～25名の短期入所を受け入れており、『通所事業所しらうめ』とも協力しながら在宅事業にも力を入れ、在宅と同様のケアを継続できるように努めています。

また、病棟では理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、支援学校の教諭など様々な職種と連携を強化しています。これからも全スタッフ一丸となり、患者さんの生活の質向上のため努力していきます。



担当の先生と散歩
桜を触ったよ♡



♪夏祭りは浴衣で盆踊りを楽しみました♪



クリスマスはサンタからプレゼントをもらったよ



節分の日
ボールで鬼退治!

『健康フェア』を開催しました



5月18日(土)、地域の皆さんの健康増進に役立てていただくことを目的に、アルプラザ城陽店で「健康フェア」を開催しました。当院から36名のスタッフが参加し、骨密度測定・血圧測定・呼吸機能検査・血管年齢・もの忘れチェック・飲み込みチェック・栄養相談・薬剤相談を行わせていただきました。また、キッズコーナーにおいては、白衣を着たお子さんたちが、城陽市のゆるキャラである「じょうりんちゃん」と楽しく写真撮影も行っておりました。

各コーナー合わせ、延べ1,762名の方にお越しいただき、人波が絶えず大盛況となりました。

この度参加いただきました方のご意見を踏まえつつ、今後も地域の皆さんの健康増進に役立てられるよう、よりよい「健康フェア」を企画していきたいと思っております。



健康フェアスタッフ一同

交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
 - JR学研都市線 京田辺から 徒歩20分
 - JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分
- *...各駅より送迎車あり

診療科のご案内

- | | | |
|---------|--------------|-----------------|
| ● 呼吸器科 | ● 脳神経内科 | ● 小児科 |
| ● 内科 | ● 外科 | ● 消化器科 |
| ● 呼吸器外科 | ● 循環器科 | ● 整形外科 |
| ● 皮膚科 | ● リハビリテーション科 | ● 放射線科 |
| ● 麻酔科 | ● 歯科 | ● 耳鼻いんこう科 (休診中) |
- (入院患者のみ対象) (入院患者のみ対象)

独立行政法人国立病院機構 南京都病院

(当院は在宅養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)
〒610-0113 城陽市中芦原11番地
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
URL <https://minamikyoto.hosp.go.jp/>

地域医療連携室

電話受付時間の延長について
平成30年12月1日から、申し込み受付を19時まで延長させていただきます。
電話受付時間
8:30～19:00 月～金(土・日・祝日休み)
TEL: 0774-52-0191 (直通)
0774-52-0065 (代表)
FAX: 0774-58-0270
予約状況を確認し、その場で受診日時をお返事いたします。
なお、お時間を要する場合は折り返しお返事させていただきますので、ご了承ください。
E-mail: 407-renkei@mail.hosp.go.jp